



TITLE:

哲学的説明—現代形而上学の観点から

AUTHOR(S):

北村, 直彰

CITATION:

北村, 直彰. 哲学的説明—現代形而上学の観点から. 京都大学アカデミックデイ2015: ポスター/展示 2015

ISSUE DATE:

2015-10-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201311>

RIGHT:

「説明」とは

この研究で注目する「説明」：

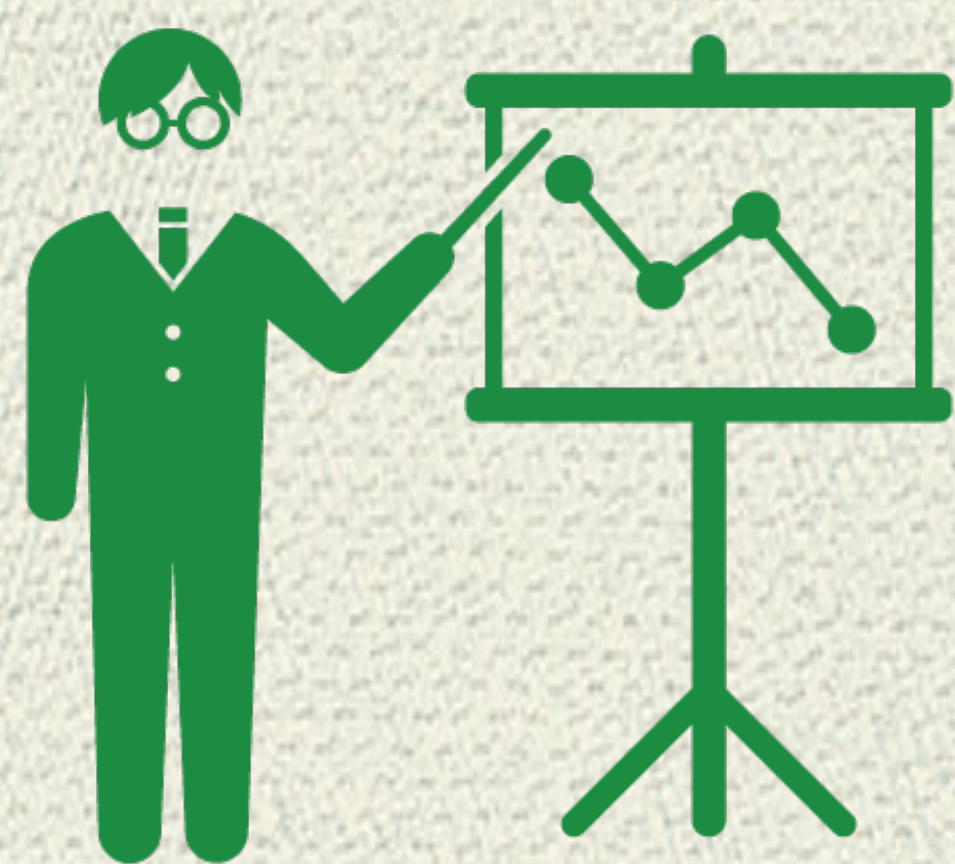
「**なぜ**」の問いに答えを与えようとする試み。

「Pである。**なぜなら**、Q**だからだ**。」

「PであるのはQ**だからだ**。」

「Q**なので**、Pである。」

といった形の言明としてなされる。



※別の意味の「説明」：
あることが成り立っていると信じるための**証拠**を挙げようとする試み。

例：「彼は飲酒した。というのも、顔が赤いからだ。」

哲学における説明の例

- ・「その行為は**道徳的に悪い**。なぜなら、その行為は単に楽しみのためだけに人を痛めつけるものだからである。」
- ・「『かつて恐竜が存在した』という文が**真である**のは、過去に実際に恐竜が存在したからだ。」
- ・「〈敬虔なもの〉は〈敬虔なもの〉であるゆえに神々に愛されるのであって、神々に愛されるから〈敬虔なもの〉であるのではない。」
(プラトン『エウテュプロン』より)

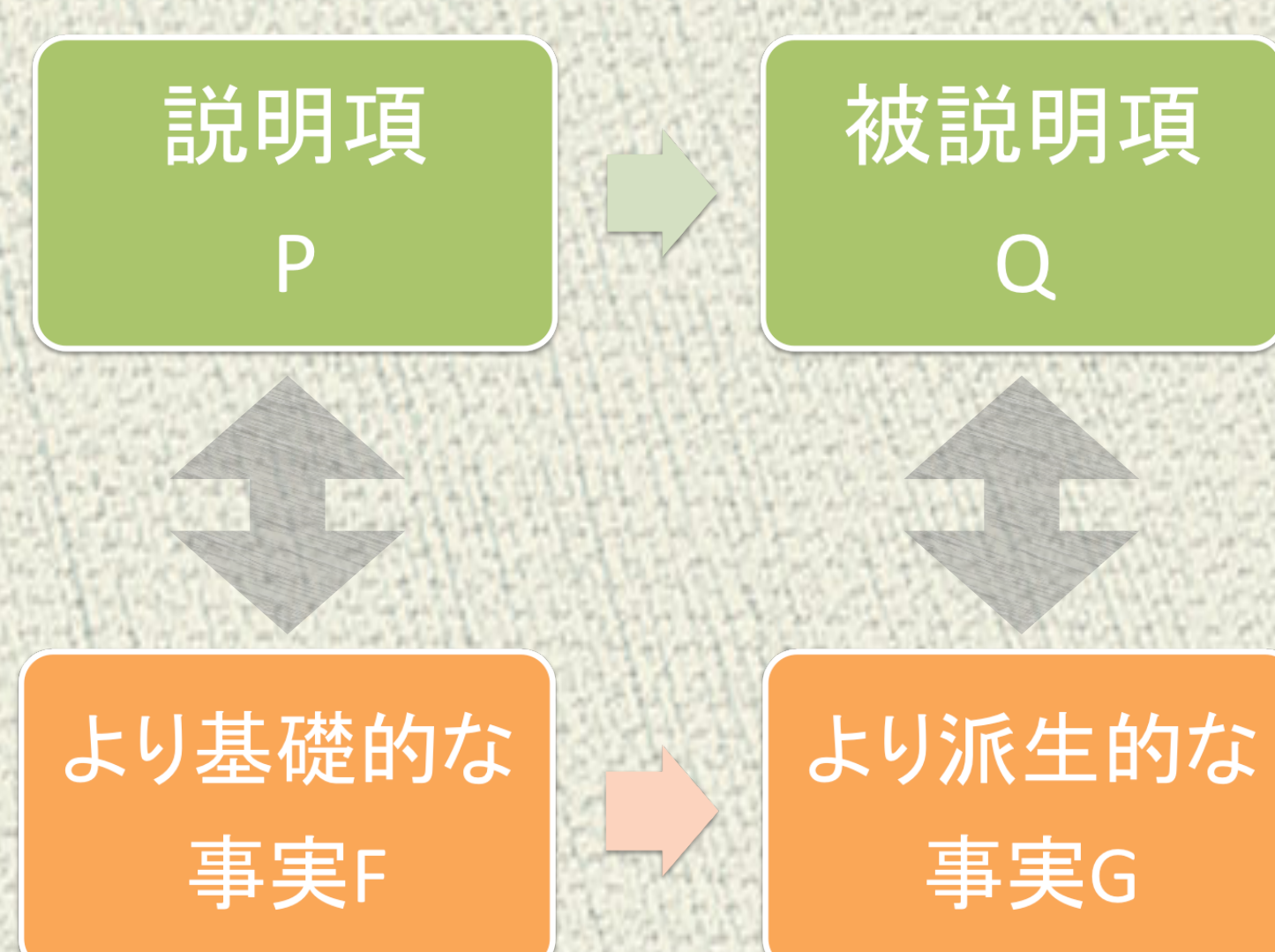
形而上学からのアプローチ

形而上学：「何がどのようにあるのか」の探究

世界の基本的な構造・究極的なあり方について考察する。存在、時間、因果、必然性と可能性などがテーマになる。

説明の形而上学的解釈：
説明的實在論

ある説明が正しいとき、その説明関係は、世界の側で実際に成り立つ**客観的な依存関係**に対応している。



哲学的説明の本性をめぐって

(1) 因果関係の特定？

哲学的説明は、説明項と被説明項との間に因果関係があることを主張するもの（**因果的説明**）ではない。

例：「〈雨が降っている〉という文が真であるのは、実際に雨が降っているからだ。」

(2) 同一性の主張？

哲学的説明は、説明項と被説明項とが**同一である**ことを主張するものではない。

例：「この絵画が美しいのは、このような構図と色彩で描かれているからだ。」

(3) 必然的な結びつきがあれば説明になる？

〈「AならばB」が**必然的に**成り立つ〉ということさえ言えれば〈AによってBが説明される〉と言えるだろうか？

反例：

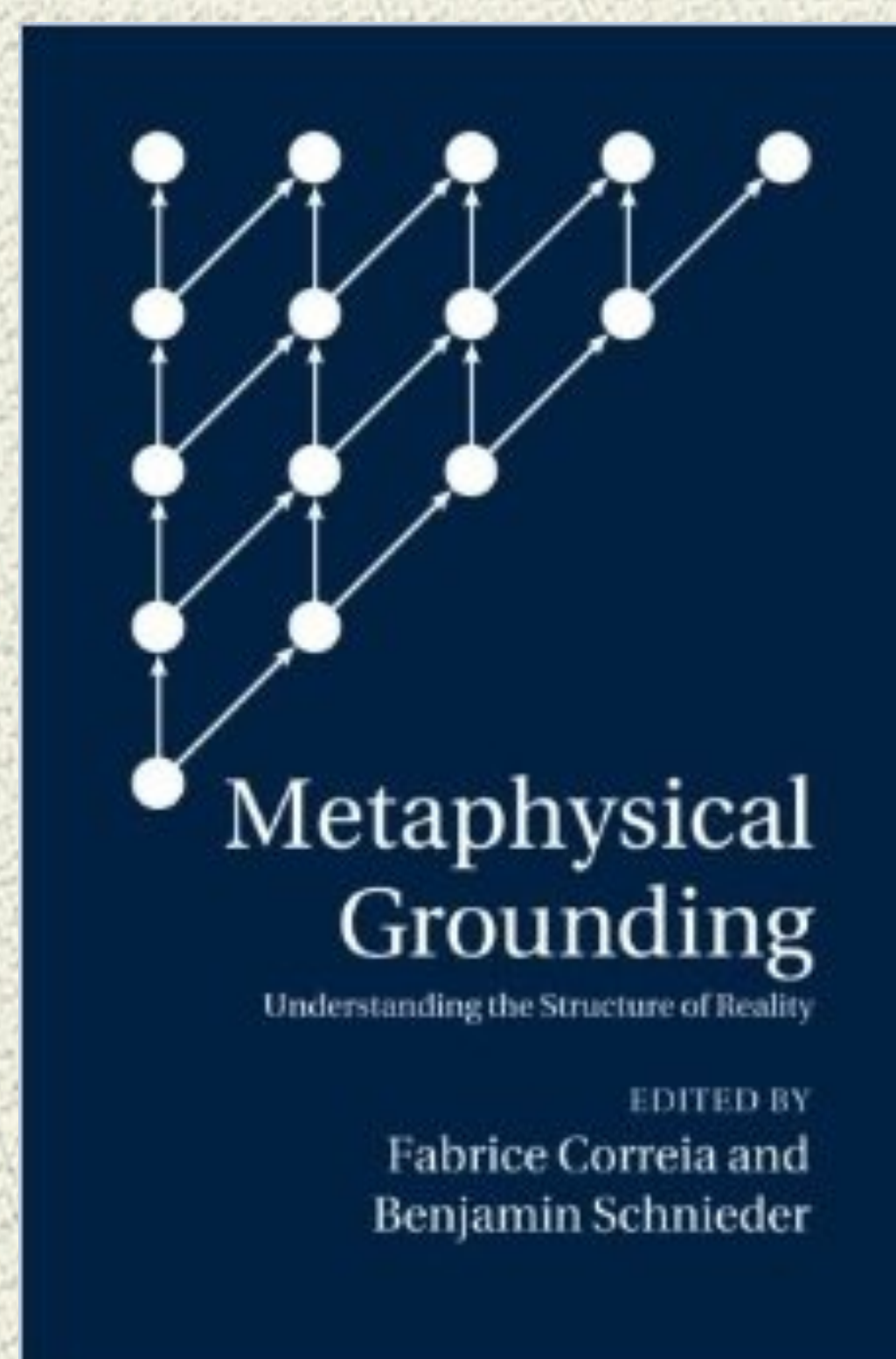
- ・ A=Bの場合
- ・ Bが必然的な真理（数学的真理など）の場合
- ・ A=「ソクラテスだけからなる集合が存在する」、B=「ソクラテスが存在する」の場合



哲学的説明と基礎づけ関係

正しい哲学的説明の正しさを支えているのは、因果関係でもなければ同一性や必然的連関でもない、**構成的な依存関係**である。

この関係を、「**基礎づけ (grounding)**」と呼ぶ。



基礎づけ関係は、説明関係と同じ論理的性質をもち、同様の数学的構造を作る。

※説明関係の論理的性質

- ・ 推移性 (transitivity)
- ・ 非反射性 (irreflexivity)
- ・ 非対称性 (asymmetry)

哲学的説明をめぐる難問 (1)

「哲学的説明」のバリエーション？

次の二つの説明のどちらが正しいのだろうか？

- ・ 「この机は白い。なぜなら、この机の白さが存在するからだ。」
- ・ 「この机の白さが存在する。なぜなら、この机は白いからだ。」



どちらも同種の「哲学的説明」として正しい、とすることはできない。
(説明が**循環**する。)

哲学的説明をめぐる難問 (2)

哲学的説明の哲学的説明？

〈AがBによって**哲学的に説明される**〉ということそのものは形而上学的に説明されるのか？

説明されるとすると……

- ・ 説明項は何か？
- ・ 説明の無限後退が起きるのではないか？

説明されないとする……

- ・ 〈AがBによって説明される〉という事実は基礎的なものであることになる。
- ・ つまり、「A」に現れるものに関する事実の中には基礎的なものがあることになる。
- ・ そうすると、派生的であるはずのものが基礎的であることになってしまう。

説明されるときでも、されないときでも、受け容れがたい帰結が導かれてしまう。(ジレンマに陥る。)

例として、

- ・ A=「私はいま痛みを感じている」
- ・ B=「私の脳のC線維が興奮している」

の場合を考えてみよう。



哲学的説明をめぐる難問 (3)

「哲学的説明」は矛盾に陥る？

一見したところ正しそうな以下の二つの原理を受け容れると、**矛盾**が導かれてしまう。

- ・ **【真理の説明】**
〈文「P」が真である〉ということは、〈Pである〉ということによって説明される。
- ・ **【存在言明の説明】**
もしaがFであるならば、〈Fであるものが存在する〉ということは〈aがFである〉ということによって説明される。

矛盾を導く論証は以下の通り。

1. 「真である文が存在する」という文は真である。(仮定)
2. もしある文が真ならば、その文が真であることは、〈真である文が存在する〉ということの説明する。(【存在言明の説明】より)
3. 〈「真である文が存在する」という文は真である〉ということは、〈真である文が存在する〉ということの説明する。(1と2より)
4. 〈真である文が存在する〉ということは、〈「真である文が存在する」という文は真である〉ということの説明する。(【真理の説明】より)

5. **矛盾**。(3と4、および説明の非対称性より)

どこが間違っているのだろうか？

(あるいは、「哲学的説明」は矛盾した概念なのだろうか？)

哲学的説明の応用へむけて

難問はあるものの、「哲学的説明」というアイデアはさまざまな哲学的応用の可能性に開かれている。

- ・ 哲学的な主張や概念の解釈
例：物理主義、唯名論、実体、……
- ・ 世界全体の階層構造に関する直観的な見方の具体化